

- 問1 室町時代後半から戦国時代にかけて、各地で勢力を強めた戦国大名は、家臣や領民を統制し、自らの領国を独自のルールで支配しようとした。このように、戦国大名が領国支配のために独自に制定した法律を何といいますか。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
1. 武家諸法度
 2. 十七条の憲法
 3. 御成敗式目
 4. 分国法
- 問2 16世紀のポルトガルによる日本への鉄砲伝来やキリスト教の布教は、当時のヨーロッパにおける宗教的情勢と深く関わっています。カトリック諸国がアジアへの進出を強めた背景について、正しい用語を組み合わせた説明を選びなさい。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 十字軍の遠征によってカトリックが衰退したため、新しく誕生したプロテスタントが海外貿易を主導した。
 2. 宗教改革を弾圧したカトリック諸国が、プロテスタントと協力してアジアでのキリスト教布教を進めた。
 3. 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。
 4. ルネサンスの影響で誕生したプロテスタントが、カトリックを国外へ追放するために海外進出を支援した。
- 問3 戦国大名が制定した「分国法」の内容や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。
 2. 明治政府が近代的な国家を樹立するために、国民の権利と義務を定めた。
 3. 江戸幕府が全国の大名を統制するために、城の修理を制限することなどを目的とした。
 4. 鎌倉幕府が御家人同士の土地争いを公平に裁判するために、源頼朝以来の先例をまとめた。
- 問4 15世紀後半、ポルトガルの支援を受けたバスコ・ダ・ガマが、リスボンを出発してアフリカ大陸南端の喜望峰を経由し、到達に成功した地域はどこですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
1. 北アメリカ
 2. カリブ諸島
 3. 中国
 4. インド
- 問5 戦国時代、現在の福井県にあたる北陸地方の要所に位置し、戦国大名の朝倉氏が有力な家臣を城下町へ集住させて築き上げた拠点の名称を選びなさい。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 一乗谷
 2. 山口
 3. 安土
 4. 小田原
- 問6 15世紀後半に京都で始まった大規模な戦乱をきっかけに、室町幕府の権威が衰え、下の身分の者が実力で上の身分の者を倒して地位を奪うという社会的な風潮が広まりました。この風潮を漢字3文字で何といいますか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 執権政治
 2. 下剋上
 3. 惣一揆
 4. 徳政令
- 問7 室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力を持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何といいますか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
1. 武家諸法度
 2. 御成敗式目
 3. 分国法
 4. 公事方御定書
- 問8 日本地図において、中国地方の日本海側に面した島根県に所在し、かつて「灰吹法」という技術を導入して生産量を飛躍的に高めた銀山を次の中から選びなさい。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
1. 石見銀山
 2. 生野銀山
 3. 足尾銅山
 4. 富岡製糸場
- 問9 加賀の一向一揆が、同時期に発生した「土一揆」などの他の社会運動と異なり、守護大名を倒して約100年もの長期にわたる自治を維持できた最大の要因として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 高知県公立入試 類似)
1. 惣村と呼ばれる村の自治組織が、室町幕府の將軍から直接的な軍事的支援を受けていたから。
 2. 守護大名が自ら権限を放棄し、農民たちに土地の所有権と徴税権を全面的に譲渡したから。
 3. 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。
 4. 加賀国においてのみ、鉄砲などの新式兵器を輸入するための自由貿易港が独占的に認められていたから。
- 問10 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景や目的として、最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 鎌倉幕府が御家人たちの領地争いを裁判によって公正に解決し、武士の支持を集めようとしたから
 2. 江戸幕府が大名たちの婚姻や城の修理を制限し、全国の諸大名を統制しようと考えたから
 3. 明治政府が近代的な国家を建設するために、西洋の法制度を取り入れて国民の権利を定めようとしたから
 4. 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから
- 問11 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. 免罪符（贖宥状）
 2. 聖書
 3. 教会が定めた儀式
 4. ローマ教皇の命令
- 問12 ポルトガルがバスコ・ダ・ガマを派遣し、アフリカ南端を経由するインドへの新航路を開拓させた主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
1. 地動説を証明するために、西回りで航海して地球を一周することが目的であったため。
 2. 北アメリカ大陸にあると信じられていた黄金の国「ジバング」を探索するため。
 3. イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。
 4. 当時中国を支配していた元との貿易を拡大し、絹織物や陶磁器を大量に輸入するため。
- 問13 戦国時代、室町幕府の支配力が弱まる中で、各地の戦国大名が自らの領国内の家臣や領民を統制するために独自に定めた法律を何と呼びますか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 公事方御定書
 2. 武家諸法度
 3. 御成敗式目
 4. 分国法（家法）
- 問14 1549年、日本の鹿児島に上陸し、キリスト教を日本に初めて伝えたイエズス会の宣教師は誰ですか。 (2017年 京都府公立入試 類似)
1. マルコ・ポーロ
 2. マゼラン
 3. フランシスコ・ザビエル
 4. ヴァスコ・ダ・ガマ
- 問15 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
1. キリシタン大名
 2. 寄親
 3. 守護大名
 4. 戦国大名

答え合わせ・解説

問1	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は幕府の法律に頼らず、自分の領国（分国）を治めるための独自の法を定めました。これが分国法です。代表的なものに、武田氏の「甲州法度次第」や今川氏の「今川仮名目録」などがあります。これに対し、御成敗式目は鎌倉時代、武家諸法度は江戸時代に制定されたものです。
問2	答え 3 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。	当時のヨーロッパでは、宗教改革の進展によってキリスト教の世界がプロテスタントとカトリックに二分されていました。特にポルトガルやスペインなどのカトリック諸国にとって、海外進出は単なる商業的な利益だけでなく、プロテスタントに対抗してカトリックの教えを世界に広めるという重要な使命を持っていました。このため、大航海時代の進出は貿易とキリスト教の布教が一体となって進められました。
問3	答え 1 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。	分国法には「喧嘩両成敗」の原則が多く取り入れられました。これは、家臣が勝手に武力で紛争を解決することを禁じ、大名が裁判権を握ることで領国内の平和を維持し、団結を強める狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、大日本帝国憲法などの説明です。
問4	答え 4 インド	ポルトガルは香辛料などの直接取引を目指し、大西洋を南下してインドへ至る東回り航路の開拓を進めました。1498年にバスコ・ダ・ガマがカリカットに到達したことで、イスラム商人やイタリアの諸都市を通さずにアジアと直接貿易を行う道が開かれました。
問5	答え 1 一乗谷	越前国（現在の福井県）を支配した朝倉氏は、一乗谷を拠点として栄華を極めました。それまで各地の領地に分散していた有力な家臣を城下町に強制的に住まわせる「集住」を行うことで、大名による統制を強め、軍力を集中させる体制を整えました。この仕組みは、後の近世城下町の先駆けとなりました。
問6	答え 2 下剋上	応仁の乱によって幕府の統制力が弱まると、身分秩序が崩れ、実力主義の社会へと変化しました。「下の者が上の者をしのぐ」という意味のこの言葉は、室町時代後半から戦国時代を象徴するキーワードとなりました。
問7	答え 3 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問8	答え 1 石見銀山	石見銀山では、鉱石から銀を取り出す「灰吹法（はいふきほう）」という技術が導入されたことで、生産量が急増しました。兵庫県の生野銀山や、愛媛県に位置し銅を産出した別子銅山などと混同しやすいですが、島根県という立地と、大航海時代の世界経済に影響を与えた規模の大きさが石見銀山の大きな特徴です。
問9	答え 3 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。	加賀の一向一揆の最大の特徴は、浄土真宗の信仰に基づく組織的な団結力にあります。各地の寺院を拠点に、武士だけでなく一般の農民までが教えのもとに結集したことで、従来の守護大名の支配を跳ね返すほどの軍力と政治力を持つに至りました。この宗教的なネットワークが、単なる不満による一時的な暴動（土一揆）とは異なる、持続的な自治体制を支える基盤となりました。
問10	答え 4 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから	応仁の乱によって中央政府である室町幕府の権威が失墜すると、各地の大名は自らの力で領国を維持しなければならませんでした。領国内の紛争を解決し、家臣を団結させて軍力を高めるために、独自の法律が必要とされました。選択肢にある「武家諸法度」は江戸時代、「御成敗式目」は鎌倉時代、「明治の法制度」は近代のものです。
問11	答え 2 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問12	答え 3 イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。	中世ヨーロッパではコショウなどの香辛料が非常に高価でしたが、陸路の貿易はオスマン帝国やイスラム商人、地中海貿易はイタリアの都市国家に独占されていました。ポルトガルはこれらの中間搾取を避け、莫大な利益を得るために海路での直接取引を目指しました。
問13	答え 4 分国法（家法）	室町幕府の権威が衰退し、守護大名が自立して戦国大名へと成長する過程で、自らの力で領国を維持・統治する必要が生じました。そこで、大名は幕府の法律に頼らず、独自の統治ルールとして分国法を制定しました。今川氏の『今川仮名目録』や武田氏の『甲州法度之次第』などがその代表例です。
問14	答え 3 フランシスコ・ザビエル	スペイン出身の宣教師で、カトリック教会の改革を目指したイエズス会の創立メンバーの一人です。1549年に鹿児島へ到着し、その後、山口や京都などで布教活動を行いました。当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こっており、カトリック教会は新たな信者を得るために海外への布教に力を入れていました。
問15	答え 1 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。